

「ニート - 若年無業者の実情と支援のあり方を考える」

提言要旨

現実を見据えて“生きるために働く”方向付けを

長 須 正 明
(拓殖大学)

0 . 現在の社会に関する認識 ~ 現在の教育環境の背景にあるもの

- * お金さえあれば何でもできると思わせる社会
- * 私事化・市場化している社会
- * 様々な社会的・経済的格差が拡大・固定化する社会
- ~ 「努力しても仕方がない社会」(佐藤俊樹, 『不平等社会日本』, 2000)

1 . フリーター~ニートの問題(基本的認識)

= 社会階層の問題

2 . 教育の問題

- * 現実を直視しない「きれい事」主義
- * 都市部ホワイトカラー家庭をモデルとした価値意識の伝達
- * 「機会の平等」を模索することなく「自己責任」を強調する

3 . 進路指導の問題

- * 進路の地域特性に目が向きにくい = 進路指導の地域格差は厳然として存在
- * 「就業体験」「インターンシップ」は歓迎され、「アルバイト」は歓迎されない
- * 大学入学の易化 = 全体としての進学シフト
- ~ 大学進学の見込要因は特定の威信の高い大学を除くと「家庭の経済力」が大きい
- ~ 今までの非進学校(就職多数校, 進路多様校)も進学シフト
- = 生徒指導上の問題を進路とリンクして指導しにくい

4 . 「働く人」のモデルが見えにくい

- * 「好きなこと」「やりたいこと」を探し求める結果, 「生活するために働く」という労働の原点が見失われ, 働く意味を見いだせない

(提言)

現実を直視して, 「やりたいこと」を探すのではなく, 「できること」をさがす。できることは誰にも必ずある。それをやることによって見えることも必ずある。「好きなこと」「やりたいこと」雇用条件などにこだわればこだわるほど, 仕事は見つけにくくなる。

「向いている」仕事を探すことも同様。適性は固定的なものではなく, やっているうちに出てくるものである。やってみなければ何も見えないし, 始まらない。

社会にいる大人の役割としては, 「若者と正面から向き合い, きれい事を並べない」こと, 「いろいろ不安もあるし, 楽しくないかもしれないけど, まずやってみよう」と背中を押してあげること, 「今を大切に生きることが将来にもつながる」と日常生活を大切にすること, を自分の経験を含めて伝えることが重要なのではないか